

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170400303		
法人名	有限会社札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	札幌市西区発寒6条13丁目10-22		
自己評価作成日	平成23年12月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400303&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400303&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名の小さなグループホームである。家庭的で暖かな雰囲気、いつも笑いが絶えないホームです。職員の手作り料理が自慢で、メニューが豊富で栄養満点です。駅からも近く、ご家族が訪れやすいです。周りに保育園や学校があり、交流しています。発寒イオンや商店も近く、買い物を楽しむことができます。併設のデイサービスの車を使うことが出来るので、いつでも外出やドライブに出かけることも出来ます。一人ひとりのニーズを見極め、個別ケアを実践している。職員一人ひとりが、理念に歌われているように、「やさしく、暖かく、そして支え合って」くれていて、おかげで、暖かいホームが出来ている。いつも居間で過され、職員と入居者様と、楽しくおしゃべりが出来る。たまにもめることもあるが、人として当たり前と捕らえ、職員が間に入り取り持つこともある。今年、初めての 看取りを体験したが、ご家族とひとつになり見送ることが出来た。退所されたご家族からも、感謝の言葉を沢山いただいた。一人ひとりの職員の質の高さに感謝している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の、JRや地下鉄駅から徒歩圏の静かな住宅地に位置する1ユニットのグループホームである。1階が同一法人が経営するデイサービスで、2階がグループホームとなっている。周辺には複数の大型スーパーや公園、市の生涯学習センターなどがあり、利便性や環境面で優れている。職員が利用者に優しく接し、親しみやすく装飾がなされた共用空間と多くの楽しみごとの中で、利用者は明るく笑顔で過ごしている。ボランティアの方の来訪や、小学生、保育園児との交流もあり、地域の理容室や商店を利用するなど、地域に溶け込んでいる。また、家族が頻繁に来訪し、運営推進会議にも家族が交代で出席して情報や意見を交換している。外出支援の面も充実しており、デイサービスの車を活用し、天気の良い日には気軽に外出をしている。個別の外出でも、近所の喫茶店や回転寿司、お墓参り、テレビに映った個別の行きたい場所など、利用者の希望に沿った外出支援を行っている。食事の面では、利用者の好みや季節感、利用者の能力に配慮しながら、美味しく、彩りの豊かな食事が提供され、皆が楽しく食事をしている。また、職員同士のコミュニケーションが良好で、お互いの考えを察知したチームワークの良いサービスを実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時、代表、役員等で話し合い、理念を作り上げた。5つのキーワードからなり、①穏やかな時間②なじみの環境③居心地のいい場所④年長者を敬う心⑤地域との連携を謳い、地域密着型サービスとして、地域との連携に力を入れている。カンファ等で理念について折に触れるようにしている。理念のカードをそれぞれ携帯し、いつでも見られるようにしている。スタッフルームの入り口にも理念を張り出し、いつでも確認できるようにしている。	5項目からなる事業所の運営理念の中で「地域との連携に努める」という内容を入れ、地域密着型サービスの理念として確立している。理念は共用部分に掲示したり、カードに書いて携帯し、カンファレンス等で確認しあい、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において、地域の方々とうまく関わって行くか話し合っている。毎年、すこやか祭りを開催し、地域の方々たちが楽しみにしてくれている。その際、事業所がどういふところなのかを知っていただけるようつとめている。町内会にも入っていて、近隣との交流があり、散歩のとき、挨拶を交わしている。近隣の保育園や小学校の行事にもお誘いいただいている。地域の商店を利用している。	地域の理容店や商店をなるべく利用している。近くの小学校や保育園の行事を見学に出かけている。また、小学生が体験学習でホームを訪問してくれたり、お話し相手や、ギター演奏などのボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちの相談に応じている。地域の方たちを対象とした認知症介護教室を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に積極的に参加くださり、いろいろな意見交換の場となっている。	2カ月毎に会議を開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、利用者家族、法人代表者などが参加し、活動報告のほか行事や地域連携、外部評価、防災などをテーマに意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き状況や情報をメールで連絡している。札幌市グループホーム管理者会議等への出席	運営推進会議で地域包括支援センターの職員が情報提供してくれ、区の管理者会議や個別のメールでも担当者や情報交換している。また、管理者は実践者研修の講師でも協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の研修会に出席したり、カンファレンス時に社内研修を行い身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠もしていない。	禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束に関するマニュアルが整備されており、定期的な勉強会で確認している。玄関の鍵は日中はかけておらず、外出がある場合はオルゴール音が鳴り分かるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に出席し、意識を高めている。虐待とは、何を以て虐待となるかなどのお話し合いを行っている。		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、会社全体で取り組んでおり、学び、話し合う機会がある。入居者様に成年後見人がついており、相談できる環境にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、十分な説明を行い、理解した上で契約を取り交わしている。また、改定時にも説明を行い、再度契約を取り交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入社時から、すこやかと、入居者様とご家族との関係がひとつの家族と捕らえ、いつでも会話が交わされるような関係作りを力を入れていて、意見や要望が言いやすいよう努力している。	運営推進会議に家族が交代で参加し意見をいただくほか、月1回の利用料支払い時になるべく来訪してもらい、意見をいただいている。利用者の様子を知らせる「すこやか便り」も毎月送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時、またはその都度スタッフの意見や提案が言えるような職場環境作りに勤めている。代表者と職員との意見交換の場がある。社長←所長←リーダー←スタッフという意見、提案などの伝えられ方が整っている。	毎月のカンファレンスや普段のミーティングの中で、業務改善について話し合っている。また、リーダーが職員の意見を集約して管理者などに伝える仕組みも整っている。行事やお便り作成、楽しみごとの企画などを職員が分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末の面談時、賞与時の面談時に本人の意向、目標を確認する。目標達成後の給与についても説明する。賞金規定の見直しも毎年行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所持する資格、経験年数に応じた実践者研修、リーダー研修など出来る限り参加できるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の親睦会には積極的に参加するように促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを守り、気持ちを傾聴し、安心して暮らしていただけるよう努力している。聞きえた情報は職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談では、ご家庭を訪問し、御家族の思いや不安などを傾聴し、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家庭を訪問した際、お話を傾聴し、支援のみきわめを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に支えられていることも多々ある。すこやかでは、入居者様とスタッフはともに支えあい仲良く暮らす家族のような関係である。入居者様は人生の先輩であり、沢山の教えを与えてくれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係がよりよいものとなるよう相談に応じている。ご家族がいつでも来訪しやすい雰囲気作りを行い、来訪時に、職員は連絡や近況をお知らせし、一緒に支えて行けるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄通りの生活を出来るだけ継続できるように情報収集を行い、なじみの人や場所を把握し、来訪時には、ゆっくりしていただけるような雰囲気作りをしている。	利用者の知人や友人の来訪を歓迎しており、知人に手紙を書く場合は代筆や郵送の支援もしている。近所の理容室や喫茶店、お墓参りなど、馴染みの場所への外出支援をきめ細かく行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな関係作りのため、スタッフが間に入り、うまく思いを伝えられない方には代弁者となり、入居者様同士仲良くよりよい生活が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談に応じ、支援している。入院している場合はお見舞いに行き、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話の中から思いや暮らし方の希望に近づけるよう、一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合でも、その人の心の中の思いを知る努力をし、その思いに添えるよう努力している。	利用開始時に生活歴などの情報を本人や家族から細かく収集し、センター方式のアセスメントシートや事業所独自のアセスメント表に蓄積している。職員はその内容の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談で、センター方式を用い、わかる限りの情報を収集し、スタッフ全員が生活歴やじょうほうをはあくしている。また、入居後も情報収集を継続し、気付きノートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方に合わせて、記録や申し送り、連絡ノートなどを活用し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファにてモニタリングを行い、意見やアイデアを提案しケアの方向性や統一を図っている。ご家族にもご意見やご希望などお聞きし、一人ひとりにあった介護計画を作成している。	毎月、利用者全員のモニタリングを行っており、カンファレンスの中で職員が意見交換し、次の計画に反映している。介護計画は半年から1年の期間で定期的に見直しをして作成し、変化がある場合の見直しもその都度行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉や様子など、細かな記録を心がけている。申し送りや気付きノート、日誌、スタッフ間のコミュニケーションを密にし、情報を共有し、実践やケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物や喫茶店、宝くじやパチンコなど個別ケアを重視し、柔軟に対応している。また、急な受診や健康診断にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方がボランティアでお話し相手をしてきている。地域のグループホームとの交流や、地域の行事など、楽しめることを見つけて参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人とご家族の希望により選んでいただく。耳鼻科や歯科も、往診してもらっている。定期健診や体調不良時は、ホームとご家族で話し合い対応している。	利用者によって頻度は異なるが、提携医療機関による往診を受けている。提携医以外の科目で家族対応が難しい場合は事業所で通院支援している。受診内容は、医師からの連絡表や日誌の受診内容欄で確認できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報を看護職員と連絡を取り合い、相談できる。夜間の急変時にも駆けつけてくれ、相談できる。主治医や看護師にも連絡し相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの情報を提供し、入院中はお見舞いに行き、病院での様子をお聞きし、退院時には看護要約をいただいたり、退院時面談に出席したりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針があり、早い段階からご家族やご本人と話し合いを行っている。終末期に入っても、何回も意思確認を行っている。今年度、看取りを行った。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し、同意書や事前指定書に署名捺印をもらっている。事業所として看取りを経験しており、外部研修や勉強会でも考え方や対応を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急やAEDの使い方などを実践している。緊急時の対応など、研修を行っている。応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。看護職員からのレクチャーを受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練では、夜間を想定し、地域の方も参加していただき、アドバイスをいただくなどしている。火災や地震、水害などを想定し、話し合いをしている。運営推進会議でも、災害について話し合い、協力体制が出来ている。避難グッズや非常食を用意した。	消防署や地域の協力を得て年2回の夜間を想定した避難訓練を実施しており、災害時の対応マニュアルも整備されている。また、職員の救急救命訓練は定期的に行われており、災害時の備品等も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーについての社内研修を行い、改めて考える時間を設けた。長い人生を歩んでこられた人生の先輩として敬い、尊敬の気持ちを大切にしている。(理念にもある)	呼びかけは「さん」づけを基本としているが、認知度の進行状況などにより、家族と相談して反応のよい愛称で呼ぶ事もある。採用時研修や身体拘束の研修時に、人格を尊重した言葉使いの研修も行っている。個人情報事務所で保管し、記録時も他者の目に触れないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が希望をしやすい環境作りをしている。出てきた思いや希望に添えるよう努力している。自分で選択できる様な聞き方をする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのライフスタイルを把握し、その人らしく過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やマニキュア、服選びなど、その人らしいおしゃれが出来よう支援している。不足品があるときは一緒に買いに行き、選んでもらう。髪型や、整容などにも気を配っている。		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、バランスよく栄養を摂取できるようメニュー作りをしている。下ごしらえや買い物、盛り付けや後片付けなど出来ることのお手伝いをしていただき、感謝の気持ちを伝える。	献立は、その日の食材に応じて利用者の好みに配慮しながら調理を行っている。畑で種類の野菜を育て、旬の野菜を食事に取り入れている。茶碗拭きや野菜の皮むき、配膳準備などを職員と一緒にを行い、楽しく食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をアセスメントシートに記入し、摂取状況がわかりやすいようにしている。嚥下、租借、状態に合わせ、ミキサー食やとろみなどの対応をしている。 おなかがすいたときには、パンやおにぎりをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの支援や口腔ケアを行っている。毎晩夕食後義歯の洗浄を行っている。定期的に、歯科往診を受け、歯の状態の把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、出来る機能で、トイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりに合った時間を探り、誘導している。	排泄チェック表に記入してパターンを把握し、利用者に応じて声かけを行いトイレでの排泄を支援している。退院後に、間隔を把握してのトイレ誘導により、おむつの使用が改善されたなどの成果もあげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便通の状態を把握し、便秘時には食事内容や水分の種類、量、などで対応し、運動や、マッサージの支援をし、すぐ薬に頼らない自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を確認しながら、一人ひとりの希望に合わせた入浴の支援をしている。午前、午後、夕方、入りたくないなど、ご本人の希望にあわせて入浴できるようにしている。	毎日1日中入浴できる体制になっており、各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。利用者の希望に応じた時間帯や湯温、服の着脱方法や同性介助などに配慮して楽しく入浴できるように支援している。入浴を拒否する場合は、拒否する背景を理解しながら言葉かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間だから寝せるのではなく、その人の習慣や状況に応じて眠っていただく。温かい飲み物を勧めたり、ホットミルクを勧めたり、湯たんぽを使用し安眠できるよう支援したり、不安な入居者様のそばで寄り添ったりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬についての把握に努めている。副作用などの知識も得るようにしている。薬が変更字は特にミスが無い様2重3重に注意し、副作用が出ていないか観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや会話の中から、好きなことや食べ物、以前行っていたことなどを把握し、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。外食や縫い物、手芸など。		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や楽しめる外出を把握し希望をかなえられるよう勤めている。買い物やドライブ、紅葉狩りや雪祭りなど、個別ケアに心がけている。	日常的に、公園や近隣住宅の庭を見せてもらいながら散歩を楽しんだり、買い物に出かけている。年間の外出行事計画をたてて紅葉狩りや神宮参拝、工場見学などに出かけたり、当日の天気に応じてドライブや外食などに毎週出かけている。保育園の焼き芋会にも招待され、園児との交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族と相談してご理解を頂、お金を所持して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや切手を用意し、登校するお手伝いをしたり、ゆっくり電話で話せるようお部屋に誘導したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	証明の調節や、日光の調節、暖房の調節、テレビや音楽の音などに気をつけている。手作りの壁面装飾や手作りの展示など明るい雰囲気作りや季節を感じていただける装飾など工夫している。過失にも気をつけている。	玄関や廊下に、クリスマスツリーや雪だるまなどの装飾を行い、室内でも季節感が感じられるように工夫している。居間と食堂には大きな窓があり、明るく開放感が感じられる。対面式の台所と共に、形の違う食卓テーブルを配置するなど、家庭的な温かさが感じられ居心地の良い共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに合わせて考えた空間作りを行っている。状況に合わせて模様替えも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望やご家族と相談して、使い慣れたものや、なじみのものに囲まれ居心地よく過ごせる環境を整えている。	入口に、利用者が一緒に作成したクリスマスの飾りと個別の郵便受けが設置されている。使い慣れた椅子やタンス、鏡台などを持ち込み、利用者に応じた配置をして居心地良く過ごせるように配慮している。家族の写真やぬいぐるみ、人形などを飾り、温かさを感じる落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	後付けの手すりや表示など、そのときに必要な工夫をし、安全な環境作りを行っている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム すこやか

作成日：平成 24年 1月 13日

市町村受理日：平成 24年 1月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	古い職員は、認知症の周辺症状やBPSDについて体験して学んでいるが、経験の浅い職員は、頭ではわかっているがどう対応していいか迷うこともある。	混乱時でも、落ち着いて対応が出来る。	日々の経験を積むこと、古い職員の対応を見て、身につけて行く、さらに研修に参加して、自分を磨く等。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。